

AXCRに持っていくと便利な物



工具やパーツなどの荷物は頑丈な中型コンテナBOX2個位が便利。スベアタイヤやタイヤチェンジャー、さらに期間中は日用品のスーツケースも、毎日移動用トラックに参加者が積み下ろしするので、防水性や耐久性にも気を付けたい。今年はサイドが開くトラックが用意される予定だ



左: 国内のオンタイムエンデューロ同様に、進行は電波時計でおこなわれるので、腕時計なども電波時計にしておくが便利。本誌宮崎は気圧センサーやコンパス内蔵、ソーラータイプのCASIOプロトレックを愛用 中: 身につける荷物を減らすならGiant Loopなどのバッグが便利。FOXのホーテジ ハイドレーションパックは飲料3L、バッグ容量20.5Lで便利 右: クニベックスのプライヤーレンチ (8603-180) は全長180m、35mmナットまで対応するのでアクスルレンチ代わりにする。持っておいて損はない

毎年多すぎたり少なかったり、コレが完璧! というわけではないがご参考までに、コンテナBOXの中には「スベアパーツ」「工具セット(走行時用の携帯工具も含む)」「ヘッドライト(緊急用と、夜間整備やマップ装着用)」「廃棄オイル受け」「ペーパータオル」「ガムテープ、ビニールテープ」「タイラップ」「透明な袋(マップホルダーの防水用にも使える)」「ZIPロック」「バッテリー充電器」「救急セット」「予備用ガソリン缶」「サンダル」など。その他交換用タイヤ、予備チューブ、

本誌宮崎の持参品

新品ムース、ムースチェンジャー、ムース用工具、オイル・ケミカル、マップチェック用の蛍光ペンやセロテープ、マジックペン、ドリンク用粉物、ゴミ袋、非常食、センタースタンド、ガソリン缶(ジャンサポートに預ける)など。なお、船使用コンテナに食料や油類は入れられないので要注意。ウェアは予備用も持参するが、基本としてホテルで洗濯する。ラリー終了後は、無理してでもブーツやヘルメットは持ち帰ったほうがいい。船便輸送中にカビが生えていることもあるので!

バイクの輸送・受け渡しは?

例年横浜市金沢区の指定倉庫に、洗車しガソリンを抜き取った状態のマシン、パーツなどの荷物(コンテナBOX)、タイヤ、その他の荷物を持ち込む。参加申し込み後に送付された関連書類に記入し、7月6日(木)までに提出。搬入は7月13日(木)~15日(土)を予定。大会終了後の横浜での受け渡しは9月14日(木)~16日(土)を予定している。



現地での受け渡しはオフィシャルホテルの駐車場や近隣サーキットで。2014年、2016年はバタヤ近郊のピラサーキットで受け渡された。ここから自分でオフィシャルホテルまで移動する。その間に翌日用のガソリン補給もおこなう



横浜金沢区の港にて、マシンやパーツを搬入出す近隣サーキットで。2014年、2016年はバタヤ近郊のピラサーキットで受け渡された。ここから自分でオフィシャルホテルまで移動する。その間に翌日用のガソリン補給もおこなう

英語、タイ語話せないけどOK?



通常の大会ブリーフィングは英語でおこなわれるが、日本人参加者のために、前日に日本語によるブリーフィングが開催される。ラリーの基本ルールや、注意事項などが説明される

AXCRは主催者が日本人ということもあり、多くの日本人参加者によって日本語が飛び交うので安心してよいが、ホテルのロビーに貼られるアナウンスはすべて公用語である英語でおこなわれる。またマナー、ルールも、あくまでも国際大会に準じたものであることは念頭に置いておこう。結果として英語、タイ語が話せなくてもコミュニケーションができれば大丈夫だが、覚えておいて損はない。

ラリーってどんな競技?

主催者から渡されるロードブック(マップ)の距離(区間と総合)、コマ図を照らし合わせながら進む競技。リエゾンは移動区間、SSはタイムで競う。まずホテルからSS1までのリエゾンをマップを見ながら目指すが、ターゲットタイム内に到着しないとペナルティが課せられるので、おおよその平均速度を割り出すか、期限時間を把握しておいたほうが安心。またSSもマックスタイム内にフィニッシュする必要がある。選手はタイムカードを渡され、スタートとフィニッシュなどでスタッフに提出し、記録し、サインを記入。スタート前は毎日ホテルのロビーなどに貼り出される。基本は一人で長距離を走行するが、ときに難しいナビゲーションでは共同作戦をとったり、複数で川を渡ったりと、冒険的な要素も。これが最高の思い出になるのだ。



マップは前夜にSSとリエゾンをマーカーで色分けしておき、村の制限速度区域や「!!!」マークなどの注意箇所をマーカー。走行中に認識しやすくする。トリップメーターが正しく作動していれば、総合距離のみの確認が進められるはずだ。「FLYING FINISH」のマークが見えれば、フィニッシュは目前だ!



この日はSSが1本で216.29km、ときに300kmを超えるSSもあるため、ガソリン補給タイミングなども考慮する

あと便利なバイク装備



風圧低減や雨によるマップホルダー、メーターへのダメージを軽減するためのフロントバイザーは便利。転倒時の破片飛散防止、衝突時の保護やビビリ防止に、ゴム製の縁をつけている



今年本誌宮崎が導入しようと考えているのがGARMINのGPS。写真は昨年の参加者のもの。横置きできるOregonを検討中だ。緊急時に居場所やホテル位置を把握できる安心感は大いにかも



国内ラリーと異なりSS、リエゾンともに長いのでビッグタンクを推奨。FE501用アジェルビス16Lタンクはベストサイズだった



左: Giant LoopのZigzag ハンドルバーバッグは1.5L容量。携帯工具やタイムカードの取り出しにも便利 右: 人にもよるが、タイヤは2日に1回(フロントは3日に1回)くらいの頻度で交換した。筆者の場合、基本ミシュランのエンデューロ用新品ムースを使い、念のため前後とも1回は交換している。路面のグリップ感、耐久性ともに、いまのところ問題なし



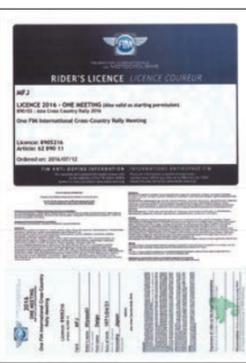
準備HOW TO編

先月号に続き、人気急上昇中のアジアクロスカントリーラリーのハウツー企画をお届けする。今月は参加するにあたって必要なライセンスや持ち物などを紹介しよう!

PHOTO/M.Takahashi 高橋学、D.Miyazaki 宮崎大吾
TEXT/D.Miyazaki 宮崎大吾

FIMライセンスはどうやって取得するの?

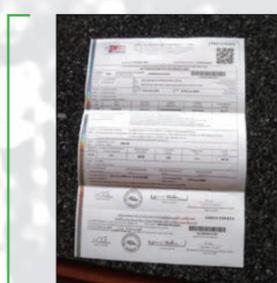
FIMクロスカントリーラリー国際ライセンスはプリントアウトして、車検で提出。本誌宮崎は念のためPDFファイルとスマホなどの端末に入れておく。余裕をみて7月中には取得しておきたい



こちらがライセンスの申請書。必要事項を記入して書類を揃えてMFJ FIMライセンス担当宛てで現金書留もしくは、指定銀行へ振り込み、郵送する



Medical Examination Formは、いよいよ健康診断書。大会直前になって慌てることのないよう、前もって病院などに相談しておきたい



ちなみに現地では...

受付時に渡されるのは、ラリー期間中の現地強制保険証控えや、国境を越える際に必要な税関の証明証(写真)。これら大事な書類はジップロックなど雨対策をして携帯しておく

しっかり準備して、ラリー本番に備えよう
ラリーと他の競技と違うのは、準備や荷物が多いことだろう。毎日グレードの高いホテルで宿泊できるのはAXCRの魅力の一つだが、ライダーにとってはしっかりと走り、トラブルが起きたら対処していくことが大事。したがって7月のマシン&パーツの輸送までの準備が重要になる。
またFIMライセンスやビザ(今年はタイ1国開催なので必要なし)の取得なども、一度やれば簡単なのだが、初めての場合は不安なはず。ここで挙げられる限り、必要な情報を載せてみたのでラリーに関心を持ったならばぜひチェックしていただきたい。装備やアイテムは人によって違うのでいろいろなラリー経験者からのリサーチも役立つはず!

☆AXCRのことに関しては、2014年からサービス隊として参加中のハスクバーナ東名横浜で相談可能です!

ウッディドライバーは汚れがちな現場作業に最適



油が付いても
すべらない!

手に4ストオイルを垂らした環境でテストしたところ、明らかにスーパークッションドライバーよりもトルク伝達がしやすい。乾燥環境（乾いた手）ではスーパークッションドライバー：8.0N・m、ウッディドライバー：6.1N・mなのに対して、オイル環境ではスーパークッションドライバー：1.7N・m、ウッディドライバー：5.9N・mと明確な差が出た。トルクダウン率はわずか3%という

油がついても滑らないグリップを持つウッディドライバーも、手を洗う時間も少ないラリー中の作業には役立つ。一般的なドライバーに加えて、ウッディナットドライバー（7mm・10mm）、ウッディトルクスドライバー（T20H・T30H）、ウッディ貫通ドライバー（+3×150・-8×150）など、バリエーションも豊富



ちなみに比較用で用いたスーパークッションドライバーだが、ラバー製のグリップのクッションが心地よく、疲労時にも最適。VESSEL全体に共通する、肝心の触先の「噛み」も高く、思わぬ発見をした



ナーやトルクスビットを差し替えられるラチェットドライバーもコンパクトで便利。ビットも16種類あり、マグネット式で交換可能。極力荷物を減らしたいラリー、エンデュロ、ツーリングでもおすすめのアイテムだ



くびれ部外形の太さやトーション部の長さを最適化することで、衝撃緩和・吸収性を高めている「サキスポ」。この原理を使用した段付サキスポボールポイントセットや、段付サキスポトルクスビットも各種サイズが揃っている

商品問い合わせ：VESSEL TEL06-6976-7771(代表) <http://www.vessel.co.jp>

古河バッテリーのチームも参戦中!

メジャースポンサーの古河バッテリー（FB）は、毎年チームを送り出すほか、全参加者を招待してウェルカムパーティーを開催。日本人ライダーには予備バッテリーを協賛してくれるので、万が一の際にも安心だ。小型リチウム電池に比較して、安心感と信頼性が抜群の鉛製は、耐久性と確実性が求められるラリーにこそ最適と言えるかもしれない。



日本からの二輪チームには予備のバッテリーが協賛される。万が一のときにも予備があるだけで安心だ



LEGによってはSSのタイム上位選手に賞金が出る。昨年はトップタイムのライダーに10,000パーツが進呈!



古河バッテリーホームページ：<http://www.furukawadenchi.co.jp>

CTSの若きメカニックも参加!



「デュオオウフェスティバル」で展示されたラリーマシンと、正示校長、AXCRで成長する生徒達を見るのが嬉しいとのことだ。大卒4年生はAXCRへ、高校3年生は鈴鹿にも派遣されている



中央自動車学校ホームページ：<http://cts.ac.jp>

5年前から千葉県白井市の中央自動車学校（CTS）の「ステップアッププログラム」を通し、毎年成績優秀な学生がAXCRにインターレースメカニックとして参加している。正示校長先生は「学校では得られないものを体験させたいという意味で、4年生の最後の仕上げとして始めました。一昨年私も同行しましたが、普段整った環境でしか整備したことがない彼らが、限られた状況のなかで工夫していく姿や、責任をもって仕事をしている姿を見れたのが嬉しいですね。私達は学生達に「社会は甘くない」と厳しい指導ばかりしがちですが、AXCRの人たちは本当に暖かくて、彼らを歓迎してくれます。やりがいを持って、就職にも活かせていると思います」と話していただいた。ラリーの過程で世代を超えて絆が生まれるのは本当に素敵だ!

AXCRに持っていききたい工具セレクト

長距離かつ様々なシチュエーションを走破する海外ラリーは、荷物が多くなりがち。特に工具は機能性を犠牲にできないので重要ポイント。

VESSELならばコンパクトかつ高機能な工具が豊富に揃っているのだ

SPECIAL THANKS / ハスクバーナ東名横浜 TEL:045-465-6071 <https://hqv-yokohama.com>



コンパクトで便利、携帯にオススメ!



A

B

車載工具の一例として本誌がセレクトした工具。VESSELのビット・ソケットタイプは利便性だけでなく、操作性や精度の高さも抜群なので、日常のメンテナンスにも最適だ

B エコソフト Tバーソケットセット



5. 5.5. 6. 7. 8. 9. 10. 12. 13mmのソケットセットと、握りやすいTバーがグッド。[VESSELは全体的に力を使わずに作業できるので、疲れたときや、自分のように毎日使うようなメカニックには最高。作り手の優しさを感じる]と、プロメカのハスクバーナ東名横浜・大崎店長談



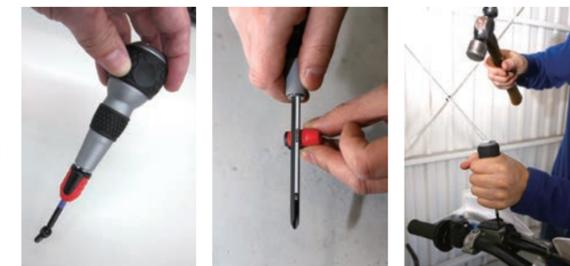
トルクスの30番や6mmナットといった、ハスクバーナのほぼすべての外装に適したサイズが揃っているため、AXCRでも役立つことが多かった

A ボールグリップ差替貫通ドライバーが便利!



発売されたばかりのボールグリップ差替貫通ドライバーに、ネジマグキャッチャーをセット。段付サキスポトルクスビット、段付サキスポボールポイントビットもセット可能。トルクスを多用するハスクバーナ、KTMオーナーにとってもありがたい

日本のドライバーの先駆けとなるVESSELの製品は、精度の高さもプロメカニックを満足させる要素。また番号が識別しやすく記載されているので、人に「●番を取って」と依頼するのにも便利



ネジマグキャッチャーをビットに差し込むと強い着磁効果が得られる。ラリーは屋外で整備をするので役立つ

側面で数回前後にこすり、最後に刃先を離すことで脱磁できる。この手軽さはなかなか便利だ

貫通ドライバーなので、つぶれたネジや錆びたネジにも使える。大型ナットでガツンと叩ける